



ホスピタル

TOYだより

第1号

平成27年12月1日発行

発行：ホスピタル・トイふくい

事務局 0770-21-3785

はじめまして、ホスピタル・トイふくいです

現在、県内小児科において病気と闘っている子ども達は数多くいます。長期にわたり入院を強いられる子ども達が少なからずいるのも事実です。そうした子ども達の多くは感染症予防の観点から部屋からも出られず、兄弟にさえ会うことも許されません。そのような状況の中で、精神面でのサポート、環境を整えてあげることは非常に大切なことと言えるでしょう。

もちろん短期入院、通院している子ども達にとっても病院内の環境を整えることは重要です。

私たちはそうした子ども達の手助けをしたいと考え、この会を設立するにいたりました。実際に小児病棟で活躍しているホスピタル・プレイ・スペシャリストを通じて県内の小児科へ発達にあったおもちゃを提供したいと考えています。私たちの活動が、少しでも子ども達のQOLの向上につながることを願ってやみません。

ホスピタル・プレイ・スペシャリストとは・・・？

HPS（ホスピタル・プレイ・スペシャリスト）は入院中の子どもに発達段階や治療を配慮しながら遊びを提供し、



HPS Japan
Hospital Play Specialist

NPO法人
日本ホスピタル・プレイ協会

子どもの成長発達を促し、また家族の精神的なフォローも同時にしていく専門職です。子どもたちは遊びを通して今後おこなわれる医療行為や医療プロセスを理解し、不安感を軽減することが可能となります。福井県では、県の事業（看護協会委託）の一環で山田智恵美氏（公益社団法人福井県看護協会）が活躍されています。

赤い羽根共同募金会からの助成金が決定しました

平成27年9月、社会福祉法人福井県共同募金会から助成金の交付決定を受け、その通知書の交付式に代表と事務局が参加してきました。共同募金関係者・助成団体・寄付者・職員等、150名もの参加者の中での交付式でした。今回の助成事業名は「小児病棟へのおもちゃの提供、貸し出し」で、今年、来年と継続して支援を受ける事が出来る「ステップアップ事業」として助成金を頂きました。



今回、この助成金から、小児医療用玩具を購入させていただきました。

小さな子どもにとって、非日常的な事の連続である入院生活だけでも大変な思いをしているのに、それに加えて初めて経験する様々な未知の検査処置が待ち受けています。嫌がる子どもには入眠剤を使用したり、拘束することもあります。この玩具を使用して小さい子どもでもわかる様に説明することで、検査の内容を理解でき嫌がることなく前向きに検査を受けることが出来るようになります。また、普段の遊びにこれを取り入れることによって、子どもが不安に思っている事等をいち早く医療者や保護者が感じ取ることが出来ます。その不安感を少なくさせる事により、病児の回復も

早まります。また、感染症予防の為、長期にわたり個室から出られずベッドの上のみでの遊びになってしまい、遊びに広がりがなくなります。HPS と、いつもとちがう玩具を媒体として遊ぶことにより、毎日の変わり映えしない遊びや退屈さから逃れることができます。

でも、病児にとって一番の薬はなんといっても、付添い人（主に母親）の笑顔です。HPSに玩具を提供する事で、子どものことを常に思い心配し、精神的につらい時があろうとも病児をささえていかなければならない母親の笑顔をサポートする役割を、これからも精一杯続けていきたいと思っています。

この助成金で購入した玩具は、入院中の子どもとその家族の笑顔につながるよう、大切に使用させていただきたいと思えます。有り難うございました。

おもちゃ紹介のコーナー



社会福祉法人福井県共同募金会の助成金から購入させていただいた、

小児医療用玩具

「ふれぱらウッド」です。

主に、子どもが自分の受ける検査処置の説明を受ける際に使用するものです。



これらの玩具は今後、HPS を介して小児病棟で活用されます。たくさんの素敵な事が子どもたちに起こりますように。

